

1

—学芸員派遣—

平成 29 年度 ワークショップ「表現活動の楽しさ～豊かな感性をはぐくむ援助の在り方」(東部教育局主催 保育士研修)」

日時：2017年6月9日(金)

会場：鳥取市福祉人材センター

対象：東部地区保育士 93名

幼児の造形活動について、当館の幼児向けワークショップの中で見られる子どもたちの姿を例にとり、その造形活動の特徴やその中での思考、鑑賞の様子などを話した。その後、4チームに分かれてビニールトンネルを装飾し、中に入って遊ぶ体験をした。参加者から、「自身の園における幼児の造形活動を見直すきっかけとなった」、「指導者自身が体験し、楽しいと感じたものを題材として選択したい」といった感想を聞くことができた。



チームごとにテーマを決めてビニールトンネルに装飾する

2

—地域でアート—

平成 29 年度ワークショップ「光る絵の具で宇宙をつくろう！」

日時：2017年8月20日(日)

会場：境港市立中浜公民館

対象：小学生 64名

宇宙空間にある星や未確認生物、未確認飛行物体などを想像し、蛍光絵の具を使って描いた後、描いたものの形に切りぬいて壁にレイアウトした。最後に、会場を暗転させカウントダウン。ブラックライトを点灯するとみんなで作った宇宙が美しく浮かび上がった。



「宇宙」から発想したものを自由に描く



会場を暗転させカウントダウンでブラックライト点灯！

3

ー学校でアートー

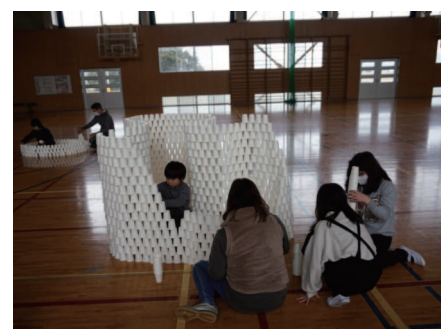
平成 29 年度ワークショップ 「紙コップ 10000 個を積んだり、重ねたり、並べたり！」

日時：2018 年 2 月 28 日（水）

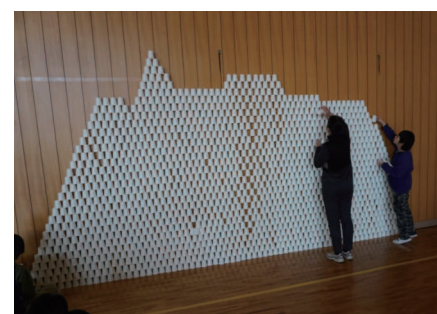
会場：鳥取市立美和小学校 体育館

対象：小学生 49 名

白無地の紙コップ 10000 個を積んだり、重ねたり、並べたりするワークショップ。積んでは崩れの繰り返しで、試行錯誤しながら「城」や「道」などを見立てた造作物を作り上げていく。学童の子どもたちが、圧倒的な数の紙コップに興味気味に制作にとりかかると、体育館内のあちこちに、あっという間に見事な白いオブジェが完成した。普段できない活動を体験し、大満足の様子であった。



紙コップの壁に囲まれながら積み上げる



どこまで高くなるか、挑戦!!

4

ー地域でアートー

平成 29 年度ワークショップ 「マグカップをつくろう！」

館外普及事業

日時：2018 年 3 月 6 日（火）

会場：湯梨浜町社会福祉協議会

対象：一般 35 名

「数時間の作業で、その日に作ったものを持ち帰ることができるものづくり系の企画を」という依頼者の希望で、オリジナルマグカップづくりを提案した。マグカップの側面に巻きつける帯状の紙を装飾するもので、誰もが気軽に取り組み、安全で、複雑な作業も少ない。参加者は、紙の上に押し花やマスキングテープなどを貼り付けて模様をつくり、それをマグカップの側面の二層になった部分に差し込み、カバーをはめて完成させた。自作のマグカップを大切に持ち帰られる姿が印象的だった。制作への関心や手指の運動機能に違いがあるため、フォローを要する場面もあったが、施設スタッフの方々のサポートのおかげで楽しく参加していただくことができた。



オリジナルマグカップイメージ

5

ー学校でアートー

平成30年度ワークショップ 「光る絵の具で不思議な世界！」

日時：2018年6月12日（火）

会場：倉吉養護学校

対象：生徒 4名、教員 3名、(計) 7名

蛍光絵の具を用いて絵を描いた後に、作品を暗室に展示し、ブラックライトで照らして光らせるワークショップ。抵抗感なく描く活動ができるよう、様々な形や大きさの紙と多様な描画用具を用意し、できるだけ制限をかけずに制作を行った。ブラックライトで浮かびあがる絵に、生徒たちは驚いたようで、カラフルな光を発する数々の作品に見入っていた。先生方にも好評で、授業後、展示会場をすぐに撤去せずしばらくそのままにし、多くの先生方にも作品を見ていただく運びとなった。



筆やスタンプを使って描く



ブラックライトを点灯すると美しい絵や模様が浮かび上がる

6

ー地域でアートー

平成30年度ワークショップ 「巨大バルーンづくりに挑戦！」

館外普及事業

日時：2018年8月7日（火）

会場：湯梨浜町中央公民館

対象：小学生 40名

カラーポリ袋や透明のポリ袋をパッチワークのようにつなぎ合わせながら大きな一枚の反物を制作し、バルーンをつくるワークショップ。学年に応じて、ポリ袋を自由に切り貼りして絵や模様をつくりながらバルーン本体をつくったり、ペンやカラーセロハンテープで絵を描いたりして参加者全員でつくった後、両端を繋ぎ合わせて筒状にし、空気を入れて膨らませる。自分の背丈よりも大きなバルーンが出来上がると、中に入って色とりどりの世界を体験したり、大勢で持ち上げたりして楽しんだ。はさみを使う作業が多いため、会場施設のスタッフや同伴の保護者の方に協力してもらいながら実施した。



色とりどりのビニールを繋いでいく（イメージ）



大きなバルーンに大はしゃぎ！（イメージ）

ー地域でアートー

平成30年度ワークショップ 「紙コップ 10000 個でアート！」

日時：2018年8月9日（木）10：00～12：00

会場：境港市立中浜公民館

対象：小学生 42名

白無地の紙コップ 10000 個を積んだり、重ねたり、並べたりするワークショップ。参加者が遊びながら素材の特徴を体感したのち、『みんなで街をつくろう！』というテーマを設定し、高い塔や、長くつないだ壁を作り、会場全体が一体となる空間が出来上がった。その後、高学年の子どもたちが完成した街に LED ライトを設置。低学年の子どもたちは住みたい場所を見つけて、自分を描いた紙コップを置いた。会場を暗転させると、照明に彩られた夜の街並みのような光景となり、歓声が上がっていた。



積んだりつなげたり

ー学校でアートー

平成30年度ワークショップ 「光のすみかをつくろう」

日時：2018年9月5日（水）9：00～11：45

会場：大山青年の家

対象：日吉津小学校5年生 27名

大山青年の家での宿泊学習期間中、現地の環境を生かした図画工作の授業を行うもので、自然の中から集めた造形素材でランプシェードを制作した。屋外で収集した枝や樹皮などを骨格とし、あらかじめペイントしたグラシン紙から、好みの色や模様を見つけて切り取り、小型の LED 電球の光に被せたり巻き付けたりして “光のすみか” を作り上げた。完成作品は、学校に持ち帰り展示された。



光を包むためのグラシン紙を染める



「光のすみかを考えてみよう！」

ー学校でアートー

平成30年度ワークショップ 「線の森に入っちゃお！」

日時：2018年10月27日（土）9：30～11：20

会場：鳥取市立若葉台小学校

対象：第3学年 43名、第4学年 49名、教員5名（計）97名

学校全体で行われる図画工作科の「造形遊び」の授業に、当館学芸員が学校に出向きワークショップを行ったもの。巨大なビニールトンネルに半透明の素材（養生テープ、透明折り紙等）を貼り付けて装飾し、完成後には、送風機でトンネル内に風を送って膨らませ、中に入ってみるなどして楽しんだ。「ぼくが一番おもしろかったことは、巨大なビニールぶくろに入ったことです。中はどんな感じがわくわくしました。とてもきれいでした。ぼくは家でもやりたくなりました」等の感想が届いた。



「線の森にはいっちゃお！」（イメージ）

ー地域でアートー

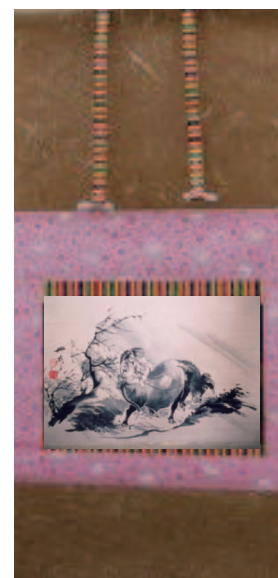
平成30年度ワークショップ 「ミニ掛け軸を作ろう！」

日時：2018年10月28日（日）10：00～15：00

会場：鳥取市文化センター

対象：小学生以上 48名

鳥取市の主催イベント「第20回文房四宝まつり」の会場にて、和紙を用いてミニ掛け軸を制作するワークショップブースを出店した。当館で開催中の展覧会にちなみ、鳥取の藩絵師、土方稲嶺（ひじかた・とうれい）の作品画像3点の中から好きな作品1点を選択し、実際の掛軸と同じ表装の手順に倣って、オリジナルのミニ掛け軸をつくった。会場を訪れた一般の方をはじめ、子ども連れのご家族や書道パフォーマンス出演後の高校生など、幅広い年齢の方々に、当館所蔵作品や、近世絵画の魅力に触れていただける貴重な機会となった。



ミニ掛け軸（イメージ）

ー地域でアートー

平成30年度ワークショップ 「イノシシのお正月飾りをつくろう！」

日時：2018年12月26日（日）10:30～11:30

会場：湯梨浜町障がい者地域活動支援センター

対象：障がいのある方々 15名

年の瀬のこの時期、午前中は当ワークショップ、午後はお正月の自宅用生け花づくりが企画されていた。そこでワークショップでは、来年の干支であるイノシシをかたどった生け花用の飾りを制作した。細かな作業が苦手な方もあったが、センターのスタッフのサポートのおかげもあり、かわいいイノシシが出来上がった。参加者の方々のうれしそうな笑顔が印象的だった。



お正月の生け花とイノシシの飾りのイメージ

ー学校でアートー

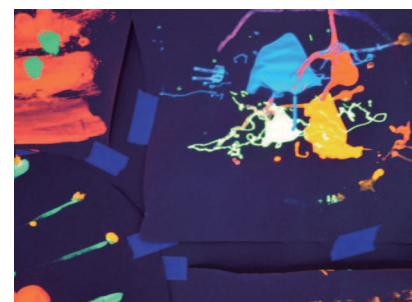
平成30年度ワークショップ 「不思議な絵の具で描いてみよう！」

日時：2019年1月23日（水）

会場：鳥取市教育センター

対象：児童・生徒 10名

児童・生徒の興味関心に応じて、抵抗感無く描けるような題材で、普段はなかなかできない特別な体験となるよう蛍光絵具を用いたワークショップを企画した。クラフト紙に描いた文字や絵が完成後にブラックライトで照らされると、大きな歓声があがり、子どもたちは自作の前でにこやかに記念撮影していた。大喜びの子どもたちの反応に職員の方々も次々と会場に見に来られ、大変盛況だった。



ブラックライトで光る絵のイメージ

平成 30 年度ワークショップ 「紙コップ 10000 個で街を作ろう！」

日時：2019 年 1 月 24 日（木）

会場：岩美子ども食堂

対象：32 名

白無地の紙コップ 10000 個を積んだり、重ねたり、並べたりするワークショップ。同じテーマで進めても、子どもたちの興味関心や会場内の人の密度、壁面の数量などによって、出来上がる空間が全く異なる。この会場は、一般住宅の居室で壁面が近くにあるため、壁に沿わせて高く積み上げようとする姿が多く見られた。最後の LED ライトによる演出では、子どもたちはもちろん、一緒に参加された大人の方々からも歓声が上がリ、会場のみんなで楽しい時間を共有できた。



これってホントに 10000 個ある？



バランスを確かめながら積み上げる

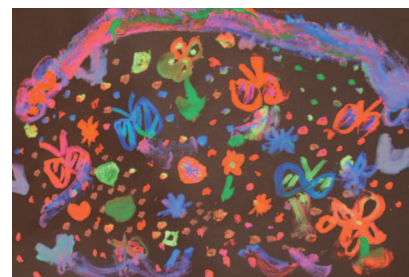
平成 30 年度ワークショップ 「不思議な絵の具で描いてみよう！」

日時：2019 年 2 月 16 日（日）8：50～10：30

会場：米子市立啓成小学校

対象：4 年生 49 名＋保護者（※当日が参観日のため）

事前打ち合わせで、児童の個性や興味関心に応じて抵抗感を持つこと無く描く活動ができ、作品鑑賞を含めて楽しく印象に残るものとなるような題材にしようということとなった。そこで、蛍光絵の具を使って、下書きなしで何枚でも描くことのできるワークショップを設定した。子どもたちは、「宝島で見つけたもの」というテーマで、配られたクラフト紙に思いつくままに描いた後、理科室の壁に展示されたたくさんの宝物をブラックライトの光で鑑賞した。2 クラス合同での活動だったため、たくさんの宝物の絵が集まり見応えのある空間が出来上がった。



理科室を暗転しブラックライトで鑑賞する



理科室を暗転しブラックライトで鑑賞する

令和元年度ワークショップ 「巨大なこいのぼりをつくっちゃお！」

日時：2019年4月29日（水）10：00～15：00

会場：倉吉未来中心

対象：401名

隣接地に県立美術館ができることもあり、倉吉未来中心主催事業の「体験 EXPO in KURAYOSHI」において、当館の普及プログラムの中の幼児～小学生を対象としたワークショップを実施した。あらかじめ用意したビニールシート製の「こいのぼり」に、参加者が制作した「うろこ」を貼り付け完成させた後、空気を入れて膨らませた。大人も立って入れるほどの大きなこいのぼりができると、子どもたちから歓声が上がった。その後子どもたちは順々に、中に入ってカラフルなうろこ越しに見える景色を見たり、自分の描いた絵を見つけたりして楽しんだ。来場者の目を引く巨大なこいのぼりは、ワークショップ終了後、倉吉未来中心のホワイエに展示された。



巨大こいのぼりづくりイメージ

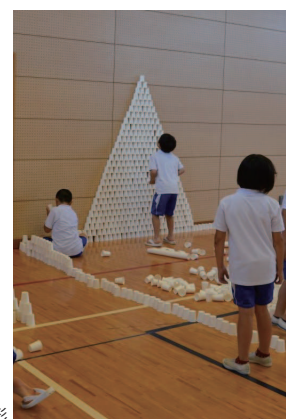
令和元年度ワークショップ 「紙コップ 10000 個でアート！」

日時：2019年6月13日（木）

会場：琴浦町立浦安小学校

対象：第3学年 31名

図画工作科の授業として、紙コップを用いたワークショップを実施した。イベントとして幅広い年齢の子どもたちが集うワークショップとは異なり、友達と連携しながら大作をつくりあげていく姿が多く見られた。真剣につくるあまり、積み上げた紙コップが崩れた際などには本当に残念そうな姿を見せる児童も多数あり、高い制作意欲を感じた。



思い思いに紙コップで造形

令和元年度ワークショップ 「落書きばんざい！」

日時：2019年7月30日（火）9：00～10：30

会場：鳥取市中ノ郷地区公民館（中ノ郷小学校校舎前）

対象：小学生 100名

隣接する中ノ郷小学校の校舎横のスペースを使って落書きを行った。当初は公民館の夏休み行事として行う予定だったが、学童保育2か所の参加もあり賑やかな落書きとなった。猛暑の続く7月であったため、活動時間を朝の比較的最早に行った。描いた落書きは中ノ郷小学校の各階廊下から見下ろして鑑賞できるためそのまま残し、夏休み中、また、新学期明けの児童や保護者に鑑賞してもらうこととした。



校舎2階からの風景

令和元年度ワークショップ 「色水であそぼ！」

日時：2019年8月1日（木）10：00～12：00

会場：境港市立中浜公民館

対象：50名

クレープ紙を水を浸して色水をつくり、ビニール袋（カレンダーやポスターを発送するための細長い透明のポリ袋）に入れ、光の当たる場所に吊るして環境を変化させるワークショップを行った。大勢の子どもたちが一斉に作業に取り掛かりサポートに忙しい場面もあったが、スタッフやボランティアの方々の手助けのおかげで、スムーズにワークショップを実施できた。子どもたちは、いろいろな色を作ってつなげたり、グラデーションをつくったりして、楽しみながら色水を並べていた。出来上がったカラフルな空間は、夏休み中は片づけず、公民館利用者にも楽しんでもらうとのことだった。



5色の紙からできたたくさんの色水が夏の光にきらきら

令和元年度ワークショップ 「ビニールトンネルをつくっちゃお！」

日時：2019年8月3日（土）10：00～12：00

会場：伯耆しあわせの郷（倉吉市）

対象：11名

巨大なビニール製のトンネルに、カラーセロハンやテープなどを貼り付け、完成後に送風機で風を送ってトンネルを膨らませて中に入ってみるワークショップ。夏休み中であったため、たくさん色を使って花火やスイカを描いたり、色を重ねて花や魚を描いたりしてカラフルな画面をつくり上げていた。人数に応じて、テーマや制作範囲、装飾方法等を指定することもあるが、少人数だったため、できるだけ制限を設けず、自由にのびのびと制作できる機会とした。尚この日は、地元倉吉でアート活動に取り組んでおられる団体の方々が、ボランティアスタッフとして制作の手助けをしてくださった。



大きなビニールに飾り付け



大きな魚出現！

令和元年度ワークショップ 「不思議な絵の具で描いてみましょう！」

日時：2019年8月8日（木）

会場：松の聖母学園（鳥取市白兔）

対象：15名

クラフト紙に蛍光絵具で絵を描き、完成後ブラックライトの下で鑑賞するワークショップを実施した。気軽に制作できるようにテーマは設定せず、8つ切り大のクラフト紙をたくさん用意し、個々に描く活動を楽しんだ。描いた作品は、暗室の壁面や天井面に掲示。ブラックライトで照らすと「わあ～！」「おお～！」といった感嘆の声が上がり、不思議な空間に見とれる姿が見られた。



クラフト紙に好きなものを描く



暗転した部屋で鑑賞

日時：2019年8月20日(木)

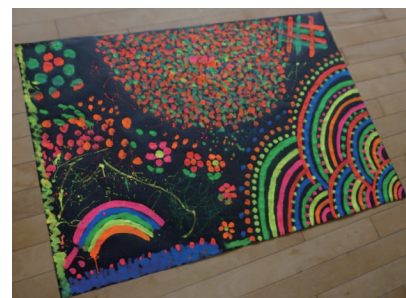
会場：県立米子養護学校

対象：中学部教員 30名

当館のワークショップで見られる子どもたちの表現や鑑賞の様子をVTRで紹介しながら、美術を通じた学びや美術科でつきたい力について確認した。その後、表現活動をとおしてどのような気づきや学びがあるのかを確認するために、教師自身が蛍光絵の具を使い様々な技法や用具で描く活動を行った。描いた作品を暗転させた別室に移し、効果的な配置の方法や鑑賞の仕方などを考えながら作品を展示して鑑賞。最後に研修の中で感じたこと、気づいたことなどをシェアし合い、まとめとした。



蛍光絵の具を重ねてみる、流してみる



子どもたちのワクワクを想像しながら描く

日時：2019年9月27日(金)

会場：鳥取市立若葉台小学校

対象：第3学年 30名、第4学年 39名、(計) 69名

色別チームに分かれ、大きなクラフト紙に蛍光絵の具で模様等を描き、完成後にブラックライトの光で鑑賞した。普段の図画工作科の授業では、鉛筆で下絵を描き、着色することが多いと考えられるため、失敗を恐れず、行為自体を楽しめるよう、合図に合わせて点々を打つ、「ぐるぐる。ギザギザ」などの言葉を聞きながら描くなどのウォーミングアップを導入として取り入れた。子どもたちは、次第に手や足に絵の具を塗って跡をつけながら移動する、大きな紙に体をぶつけるようにして描くなど、ダイナミックな活動に夢中になっていった。大きな紙全体を埋め尽くすように描かれた作品は、ブラックライトの下で美しく輝いた。



手形をベタベタ!



暗転した部屋に展示して、ブラックライトを点灯!

令和元年度ワークショップ 「不思議な絵の具で描いてみよう！」

日時：2019年11月27日（水）

会場：鳥取市教育センター

対象：16名

蛍光絵の具を使っのワークショップは昨年度初めて開催し好評だったため、今年もお願いしたいとの依頼だった。使用する教室をクラフト紙で覆うことから活動を開始し、その後机や壁を覆ったクラフト紙に蛍光絵の具で描いた。描き終わった後蛍光管をブラックライトに付け替え鑑賞の時間とした。生徒、保護者、教員ともに好評であった。



クラフト紙にローラーでペイント（写真：2018年度）



ブラックライトで鑑賞（写真：2018年度）

令和元年度ワークショップ 「不思議な絵の具で描いてみよう！」

日時：2020年2月15日（土）

会場：米子市立啓成小学校

対象：第4学年児童 50名、保護者

参観日に合わせて蛍光塗料とブラックライトを使用したワークショップ行った。担当の先生に児童の様子やこれまでの経験などを教えていただき、子どもたちの個性や興味関心に応じて緊張感や抵抗感を持つこと無く、楽しく描けるような題材を設定した。また、作品鑑賞を含めて印象に残るものとなるような内容とした。描いた作品を暗転させた別室に展示。カウントダウンとともにブラックライトを点灯すると、子どもたちや保護者から大きな歓声が上がった。



ブラックライトで鑑賞（写真：2018年度）



ブラックライトで鑑賞（写真：2018年度）